

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(にかほ市)

1 市の概要(人口23,323人)※令和4年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0 園	0 園	4 園	5 か所	0 園	0 園	4 校

その他:なし

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各園の特色・特徴を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する。
- (2) 教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

- (1) 就学前教育が及ぼす認知能力・非認知能力の育成を認識し、行政、保育者、保護者、教育者が連携し、親の経済状況による教育を受ける機会の格差が生じない環境の構築を図る
- (2) 「子ども・子育てに寄り添うまち」として各保育施設、教育施設を核とした、地域全体での子育て支援体制の充実を図る
- (3) 幼児教育保育の質の向上を図るため、連携協定先の高等教育機関等の助言を受けながら、各保育園・認定こども園の特色を生かした保育の実現を進め、地域への愛着が高い子どもを育てる。

主な内容

- 1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・教育・保育アドバイザーを子育て支援課に配置
 - ・教育・保育アドバイザーを活用した事業の周知
 - ・教育委員会との連携強化のための情報交換
- (2) 教育保育アドバイザーによる市内保育所・認定こども園の訪問
 - ・園内の職員間での円滑な情報共有について
 - ・保育士と保護者との関りについて
 - ・職場のコミュニケーション、人間関係について
 - ・対応が難しい子どもとその親との関りについて
 - ・障害児とその親との関り、指導について
 - ・虐待等の早期発見、防止に繋がる情報共有について
- (3) 専門性向上のための研修、研究支援
 - ・体制活用のための人材育成方針の作成・活用
 - ・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施
 - ・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する
- (4) 幼小接続の推進など、体制の活用
 - ・教育委員会、教育専門家、市が連携協定を締結した大学等高等専門機関の教授ら研究者と保育士による幼児教育の効果を実践する研究会の開催と検証
 - ・教育委員会部局との情報共有を密にし、市で進める幼少連携の強化を図る
- (5) 県と市の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組みづくり

・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解 ・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用	
年度別重点	
令和4年度	園との連携体制をさらに深化させ、各園の課題やニーズの把握に努め支援を行う。幼保小接続の推進に向けた連携体制の構築と強化。
令和5年度	園内研修の更なる充実。幼保小接続の推進に向けた関係部局との連携体制を強化し相互理解を更に促進する。
令和6年度	2年間の成果と課題を踏まえ、より効果的な事業を展開する。幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての取り組みの促進。

4 令和4年度の具体

目的

1. 教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努め、課題解決のための支援を行う。

2. 行政と園が連携して教育・保育の質の向上に資する取り組みを行う。（研修等）

3. 小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。

実施内容及び実施状況（中間）

（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

・子育て支援課と学校教育部局（学校教育課）の連携を強化し、小学校との円滑な接続のための情報共有を図る。

・小学校への訪問、情報共有により就学までに身に付けたい資質・能力の向上について相互理解を深める。（市内各校を訪問）

○未就学児童の集団訓練や幼児相談カンファレンス等を通じて、配慮を要する子どもの就学に必要な支援について、関連部署において情報を共有している。

●各関連部署との情報共有を包括的に検証する機会を持ち、次年度以降の情報の引継ぎ等に役立てるようにしたい。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

・子育て支援課に教育保育アドバイザー１名を継続配置

・教育保育アドバイザーが定期的に保育所・認定こども園を巡回訪問し、各園の実情を把握し、適切な助言、支援を行う（９施設：８１回訪問）

・園内研修への支援として、保育の改善や協議の仕方への支援、園の課題や研修計画等へのアドバイス

・子ども家庭総合支援拠点（家庭児童相談室）、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、支援が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う（毎月）

◇令和４年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（にかほ市）

⑥派遣実績		計	施設／全	施設	回
回	数	・ 保育園：私立５園（４８回）			
		・ 幼保連携型認定こども園：私立４園（３８回）			
訪	問	・ 園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）		９園	（４７回）
		・ 公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）		園	（回）

内 容	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）	9園（19回）
	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）	9園（9回）
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）	9園（9回）
		施設（回）
		校（回）
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）	2園（2回）
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）	校（回）
		園（回）
理 由	・各園を定期的に訪問することで各園の実情や課題等を把握し、課題解決に向けた支援を行い、保育の質の向上を図る。	
	・家庭児童相談室、子ども家庭総合支援拠点等と情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその保護者への関わり方について連携しながら支援を行う。	

- 教育保育アドバイザーの役割や活用方法が認知されてきており、訪問を希望する園が増えてきている。
- 教育保育アドバイザーが訪問、支援を重ねていく中で、保育園等では主体性を持って課題を提供したり目標を設定するなど意識の変化が見られる。
- 一方で、園の規模や体制により教育・保育アドバイザーの活用機会に差があるため、引き続き各園の環境やニーズ把握に努めながら、アドバイザーを通じた支援を継続していく。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

- ①基本的な研修の進め方や研修の方法について学ぶ「取り組みやすい園内研修Ⅰ」を開催。

（※キャリアアップ研修として開催）

開催日：令和4年8月10日（水）

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石 郁子

〃 指導主事 佐藤 玲子

〃 指導主事 佐藤 忠浩

〃 教育・保育アドバイザー 山上 真智子

参加者：9園5名

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの姿や場面を見る際に、自分一人の見方だけではなく、様々な見方に触れることで、自分の見方や考え方が広がることを演習を通して改めて感じることができた。
- ・日々の保育について、素直にオープンな姿勢で話せる同僚との関係性を大事にしていきたい。そしてSOAPの視点で保育を評価する協議の進め方を自園の園内研修で実践できるようにしたい。
- ・演習の中でファシリテーターになってみて、協議を進める難しさを感じた。SOAPの視点で意識して協議を進めることが大切だと思った。



（写真左：「ファシリテーターの役割について」講義、写真右：演習による実践）

- 「SOAP」の視点による子どもの読み取り方法があることを学んだ参加者が多く、園に持ち帰り実践したいという声が多く聞かれ、有意義な研修であった。

②成長や行動等が気になる子、その保護者への支援について学ぶ「発達支援研修会」を開催。

(※キャリアアップ研修として開催)

開催日：令和4年8月30日(火)

講師：秋田県立ゆり支援学校

特別支援教育アドバイザー 石川 純子

参加者：8園17名

【参加者アンケート抜粋】

- ・発達障害の特徴がとても分かりやすく、寄り添い方、理解の仕方、保護者へのかかわり方の大切さを知ることができた。
- ・保護者の対応のポイントを詳しく教えてもらい、困り感をいつでも聞いてあげられるように保護者との信頼関係を作っていきたい。
- ・ユニバーサルデザインを取り入れることは特性を持った子だけでなく、全員にとって分かりやすい、意欲につながる環境になるので意識して取り入れていきたい。



(写真：研修会の様子)

○園において、最近では気になる子及びその保護者への関わり方についての相談が増えてきていることから本研修に至った。講師からは発達障害を理解するという基本的な部分から保護者対応のポイントまで分かりやすい内容で講話があり、参加者にとっても充実した研修となった。

③基本的な研修の進め方や研修の方法について学ぶ「取り組みやすい園内研修Ⅱ」を開催。

(※キャリアアップ研修として開催)

開催日：令和4年12月16日(金)

講師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石 郁子

〃 指導主事 佐藤 玲子

〃 指導主事 佐藤 忠浩

〃 教育・保育アドバイザー 山上 真智子

参加者：9園5名

【参加者アンケート抜粋】

- ・SOAPの視点を日々の記録に活かすことはこれからの保育にすぐに活かせることができるのではないと思った。
- ・ファシリテーターとして話を進めていくことに難しさを感じていたが、今日の視点、ねらいを明確化することでその方向へ進められることを演習を通して感じる事ができた。
- ・リーダーとして保育を進めていくうえで、ファシリテーターの役割にもある傾聴を心掛けるようにして、自分の思いを話しやすい雰囲気作りや問いかけができるように努めていきたいです。



(写真左：「ファシリテーターの役割についてⅡ」講義、写真右：演習による実践)

○8/10に行った研修のフォローアップを兼ねて開催した。ファシリテーターの役割について、今回も演習で実践した。回数を繰り返すことで参加者も理解が深まり成果のある研修となった。

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・アドバイザーの小学校訪問による情報交換の実施
- ・教育委員会部局と連携し、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図る（随時）

○これまでに実施してきた事業への参加・協力体制を強化することで、相互理解を深めることに繋げている。

- 就学前施設から小学校教育への円滑な接続に向けて、保育所・認定こども園と小学校等の教職員間の相互理解、資質向上を目的に「幼保小合同研修会」を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となった。
- 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けて、小学校を含めた教育委員会とは、更に連携を深めていく必要がある。

(5)「県との連携体制の充実」

- ・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解を図る（要請訪問による指導年2回・市の計画相談年2回）
- ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用
- ・県の要請訪問へのアドバイザーの同行支援（2園2回）
- ・県アドバイザーによる支援訪問に市アドバイザーが同行支援（2園2回）
- ・県主催「市アドバイザーに学ぶ研修会」にアドバイザーを派遣（開催地：仙北市、大仙市）
- ・県幼保推進課所管研修会にアドバイザーを派遣（「園内研修リーダー養成講座Ⅰ」「園内研修リーダー養成講座Ⅱ」）

○県アドバイザー連絡協議会に参画することで、他市の取り組みを学ぶことができ参考になった。県アドバイザーから助言等も励みにして、引き続き効果的な事業実施に取り組みたい。

- アドバイザー1名の配置となっているため、業務の分担や検証がしづらい環境にある。他市のアドバイザーとの交流等から、業務の進め方について参考になる事例を学んでいく必要がある。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和4年度)の成果と課題

○教育保育アドバイザーの役割や活用方法について認知度が進み、配置による効果及び必要性がより高まってきている。

○コロナ禍であったが保育園等への訪問回数も初年度に比べ増え、活動量も増えた。

○園内研修においては、教育保育アドバイザーの支援及び研修会の実施により、園全体の意識の向上や教育・保育の質の向上につながっている。

- コロナ禍で「幼保小合同研修会」が中止となるなど、小学校への円滑な接続に向けた取り組みが思うようにできなかったため、次年度では幼保小接続の取り組みを強化したい。

- 幼保小接続の体制の基盤を更に強化していかなければならない。